

物流における環境負荷低減に向けて

スバルでは、完成車輸送において最適な輸送ルートの設定、モーダルシフトの推進、同業他社との完成車共同輸送の取り組みなどにより、環境負荷低減に貢献しています。また、梱包資材の再利用による資材削減活動にも積極的に取り組んでいます。

完成車輸送における環境負荷の低減

スバルロジスティクスの取り組み

完成車の輸送では、最適な輸送標準ルートの設定、モーダルシフトの推進、積載効率向上などの輸送の効率化を進めることで環境負荷低減に貢献しています。また、スバルロジスティクスでは同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2010年度の共同輸送取扱量（他社への委託台数と他社からの受託台数の合計）は、25,278台の輸送を行いました。

2010年度も、デジタルタコグラフの拡大、アイドリングストップ装置、エコタイヤの装着を推進し、定期的に協力会社から走行距離・燃費データを集約することで、より精度の高いエネルギー消費量（含むCO₂排出量）の把握を行いました。結果、前年比約1%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に進めています。

■ 共同輸送取扱量の推移



梱包資材の再利用化

海外向けノックダウン^{※1}部品梱包資材の再利用

ノックダウン部品の梱包荷姿設計を担うスバルロジスティクスでは梱包資材の再利用化を柱に環境負荷低減活動に取り組んでいます。

取り組み内容としては2005年下期よりエンジン部品梱包資材に使用している発泡スチロール製梱包資材の再利用計画に着手し、2006年3月より1次取り組み、2007年12月より2次取り組み、2009年3月より3次取り組みを行い、梱包資材の再利用を実施中です。

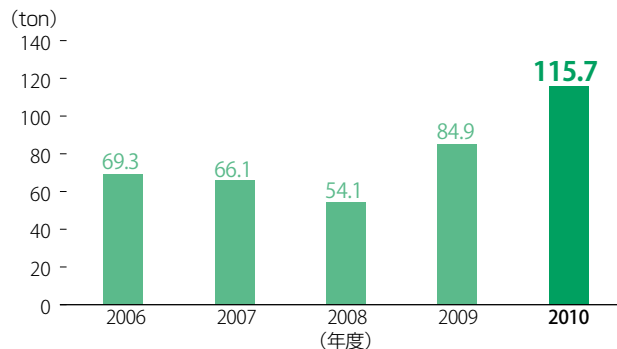


梱包資材の再利用点検状況と保管状況

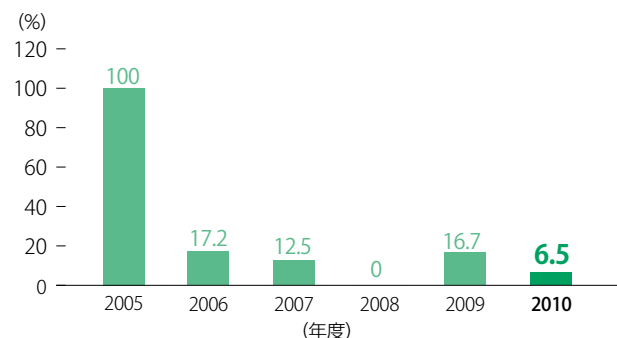
今後も梱包資材の再利用化を拡大して環境負荷低減活動に取り組んでいきます。

※1 ノックダウン：主要部品を日本から輸出して、現地で組み立て、生産を行う方式のこと

■ 発泡リユース対象資材取扱い量推移



■ 発泡リユース対象資材新規購入割合



クリーンな販売店の拡大を目指して

スバル販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために環境マネジメントシステム「エコアクション21」の導入を推進しています。お客さまの環境意識が高まる中、エコカーの普及と同時にクリーンな販売店を目指して取り組みを加速させていきます。

スバル販売特約店での環境保全取り組み

国内販売特約店の全店でEA21の認証取得

当社は国内の販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために、環境省がISO14001をベースに策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21(EA21)」の導入を積極的に奨励し支援してきました。2009年1月の東京スバルを皮切りに順次認証取得し、2011年3月に国内販売特約店の全店(44社)で認証取得を完了しました。引き続きEA21を活用したスバルチーム内の自主的な環境保全活動を支援していきます。



静岡スバル 認証式
左側:社団法人 静岡県環境資源協会
専務理事
平井 一之様
右側:静岡スバル自動車(株)
代表取締役
今田 健次



甲信越・北陸スバル 認証式
左から順に スバル信州(株) 中村社長
新潟スバル自動車(株) 篠木社長
EA21地域事務局 新潟県環境分析センター-EAとき 理事長 猪俣 勝一様
北陸スバル自動車(株) 矢田社長(認証式当時)
山梨スバル自動車(株) 手塚社長(認証式当時)



「エコアクション21」 推進担当者の声

2011年3月スバル販売特約店の全社・全拠店がエコアクション21の認証を取得完了し当社の支援も一段落しました。この活動は地域の環境保全・地域貢献と法令対応によるコンプライアンスの推進を特約店の自主活動への支援をすることでした。

2008年、特約店への環境マネジメントシステム(EMS)の構築の支援指示を受け、実際にシステムを企画・立案、準備をすると、さまざまな運用が多くの部門にかかわる状況であり、特に運用・管理を一本化(集中化)することと拠店単位での対応をできるだけ最小

限に抑え、継続性を重視したうえで集約することが必須であり、今回その基本ができたことと考えております。

スバルは「お店もECO」「ECOディーラー」と言われるようになれば幸甚と存じます。

総務部 環境推進室 萩原 幸弘



■ EA21の認証取得状況[2011年4月1日現在 取得順]

販売特約店名	認証取得日	認証登録番号	スバル新車 取り扱い店舗数
東京スバル(株)	2009年1月27日	0003261	32
埼玉スバル自動車(株)	2009年2月25日	0003347	18
名古屋スバル自動車(株)	2009年4月30日	0003592	19
岐阜スバル自動車(株)	2009年7月21日	0003889	9
三重スバル自動車(株)	2009年8月28日	0004068	7
神奈川スバル(株)	2009年8月28日	0004069	24
南信スバル(株)	2009年9月29日	0004188	1
福岡スバル(株)	2010年3月11日	0004737	19
西九州スバル(株)			11
熊本スバル自動車(株)			8
大分スバル自動車(株)			5
南九州スバル(株)			12
新沖縄スバル(株)			3
栃木スバル自動車(株)	2010年3月15日	0004739	12
福井南スバル自動車(株)	2010年8月31日	0005558	1
富士スバル(株)	2010年9月7日	0005653	19
宮城スバル自動車(株)	2010年9月24日	0005811	12
青森スバル自動車(株)			6
岩手スバル自動車(株)			9
秋田スバル自動車(株)			7
山形スバル(株)			6
福島スバル自動車(株)			10
奈良スバル自動車(株)	2010年10月15日	0005997	6
新潟スバル自動車(株)	2010年11月4日	0006090	11
スバル信州(株)			10
山梨スバル自動車(株)			3
北陸スバル自動車(株)			13
千葉スバル自動車(株)	2010年11月18日	0006212	21
大阪スバル自動車(株)	2010年12月28日	0006440	29
京都スバル自動車(株)			8
滋賀スバル自動車(株)			8
兵庫スバル自動車(株)			17
広島スバル(株)	2010年12月28日	0006442	8
山陰スバル(株)	(合計6社で認証を統合)		9
岡山スバル自動車(株)			7
山口スバル(株)			10
東四国スバル(株)			10
四国スバル(株)			8
茨城スバル自動車(株)	2010年12月28日	0006444	10
釧路スバル自動車(株)	2011年2月3日	0006566	1
静岡スバル自動車(株)	2011年2月9日	0006602	13
北海道スバル(株)	2011年2月16日	0006640	21
帯広スバル自動車(株)	2011年2月18日	0006650	1
スバル東愛知販売(株)	2011年3月11日	0006767	3
合 計			477

北米を中心にグローバルに環境活動を推進しています

スバルでは、海外の関係会社の中で特に環境負荷が高い北米の製造関係および販売関係のSIA、SOA、SCI、SRDの4社により「北米環境委員会 (NAEC)」を組織しています。この委員会は年2回定期的に開催し、スバルグループ間の活動事例の共有・水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。2010年度は6月、11月に北米環境委員会を開催しました。この委員会では、北米環境委員会各社の活動報告とともに日本の環境委員会の活動報告も行い、グローバルな情報の共有化を進めています。

地域貢献および環境保全活動への取り組み

環境マネジメントシステム構築

北米環境委員会のSIA、SOA、SCI、SRDの各社は2006年12月にすべてISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しており、2010年度の再認証も取得しました。また、SIA、SOA、SRDの3社では、2009年度より統合認証を取得しています。各社で教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

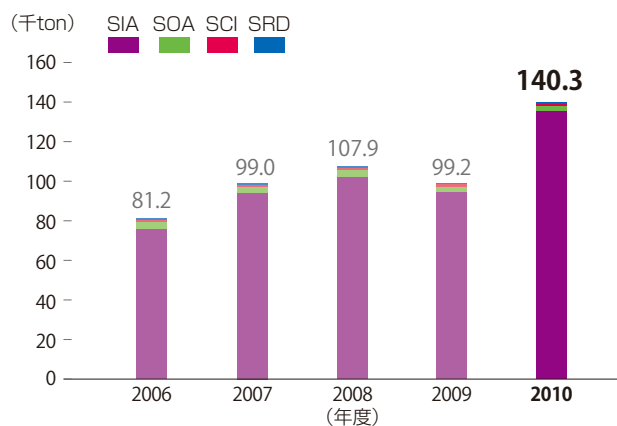
特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のスバル生産拠点である群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。

地球温暖化防止への取り組み

深刻な問題である地球温暖化防止のため、各社さまざまな対策を推し進めてCO₂総量の削減に努めています。

2010年度の北米4社のCO₂総排出量は140,303 ton-CO₂で、2009年度の99,262 ton-CO₂に比べ約41.3%増加しました。これは、2010年度の販売が飛躍的に伸びたことによるものです。

■ CO₂排出量



■ 照明の変更

CO₂を削減するため、北米各社では照明器具を電力消費量の少ないものに取り替えるプロジェクトが進んでいます。例えば、SOAでは、エネルギー効率の良いボイラーや空調設備への変更を進め、エネルギー節約を継続しています。

SCIでは、天窓にUV加工されたフィルムを張り、自然光の明るさを維持しつつ直射日光による熱を下げるよう工夫しています。またSOMI^{*1}では、2010年度～2011年度のライティングプロジェクトを立ち上げ、サービス工場のライトや、ショールーム、駐車場で使用していた113本のライトをエネルギー効率の良いライトに替えました。以前に比べ30%明るく、かつ総エネルギー消費量は25%削減を目標に活動を進めています。

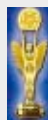
^{*1} SOMI
SCI傘下のディーラー Subaru of Mississauga

■ カーボンフットプリント完了

SIAでは、近年取り組んできた「カーボンフットプリント」によるCO₂排出量算定を完了しました。インディアナ州で気候登録に参加している企業の中で、一番最初に完了した工場となりました。



The 15th Annual Urban Wheel Awards



2011年1月9日にミシガン州デトロイトで行われた「The 15th Annual Urban Wheel Awards」表彰式で、SIAはもっとも緑化が進んでいる工場として、表彰を受けました。主要メディアは地域や顧客にとってもすばらしいニュースとして伝え、SIAという企業はアメリカの中でもっとも環境に配慮した自動車メーカーであると報道しました。主要メディア代表のRandi Payton氏は「記念すべき15周年に際して、環境や燃費の向上に大きな進歩を遂げた自動車会社に特別な賞を与え、それを認識することはとても重要なことだ」と述べ、さらに「もっとも緑化の進んでいる工場としてこの賞を自動車メーカーが受賞したことは、彼らがすべての人々の幸福のために、持続可能な長期的なビジョンに向けて熱心に取り組んでいる証拠である」とSIAを評価しました。

■ Native Indiana Prairie活動

SIAでは、Indiana Wildlife Federation (IWF)やFish and Wildlife Serviceなどインディアナ州の野生生物保護活動をしている団体と協力して、天然インディアナプレーリー(大草原)に自生のプレーリー草花を植える活動を行っています。

プレーリーに植えられた草花は、カーボンオフセットに使用されています。



Native Indiana Prairie

■ 環境Stewardship Program

SIAは積極的な環境活動への参加が評価され、2009年に「インディアナ環境Stewardship Program」のメンバーへの正式な加入が認められ、2010年度もこのプログラムの一員として表彰されました。このプログラムへの加入は州の中でも非常にまれで、SIAはこの名誉あるプログラムに認められた数少ない企業として、100社を超える企業に対し、「インディアナ環境Stewardship Program」の活動についてプレゼンを行うなど、さまざまな場所で講演する場を設けています。

■ 省エネ改善プロジェクト

SRDでは自動販売機を「エネルギースター」*2を取得した冷蔵庫に取り替えました。

国土の広い北米では会議への参加も飛行機を使うことがあります。しかしSCIは飛行機の代替手段として社有車のカーシェアリングを推奨しています。

*2 エネルギースター

「国際エネルギースタープログラム」パソコンなどのオフィス機器について、稼働時、スリープ・オフ時の消費電力に関する基準を満たす商品につけられるマークです。日本、米国のほか、EU等7ヶ国・地域が協力して実施している国際的な制度です。



■ 廃棄物削減への取り組み

2010年度の北米4社の総廃棄物埋立量は340.3トンとなり、2009年度に比べ約31%削減しました。これは、SOAで廃棄物のサーマルリサイクル(熱回収)や、リサイクルパレットの導入が進んだこと、またSRDで埋立予定の廃棄物をリサイクル化や再利用により削減したことによるものです。

なお、自動車を生産しているSIAは、2005年にはゼロエミッションを達成、現在も“埋立ごみゼロ”を継続しています。各社は、輸送時の梱包材の再利用化を進めており、SCIではSOAやFHI(富士重工業)と協力して再利用可能な部品用のコンテナを使用しています。

また、ケバック州で開かれた2010年度国内ディーラー

ミーティングでは、2009年7月にディーラー向けに創設されたエコ・エクセレンス(優秀環境)プログラムで環境に焦点をあてたブースを出展し、プログラムへの参加を奨励しました。

SIAではこれまで続けてきた「ランチルームの生ごみの堆肥プロジェクト」も完了し、SIAでできた堆肥を地域の団体へ配布するなど、さらなる廃棄物の削減に努めました。今後も積極的に活動を進めていきます。

■ 廃棄物埋立量



SRDの生物多様性教育

SRDのあるミシガン州周辺では近年コウモリの生息数が激減しており、生態系の保護と生物多様性の教育を目的に、SRDでは2011年1月アンナーバーにある学校の子どもたちと合同で敷地内の木々に“コウモリの家”を設置しました。コウモリは害虫や蚊を食べてくれたり、ミツバチと同じように受粉に寄与するなど、アメリカの農業にも欠かせない存在となっています。



コウモリの家を設置するSRD従業員



参加した従業員と子どもたち